

報告事項 議題提案書

議題名：「NGO と ODA の連携に関する中期計画」タスクフォース活動の現状について

【提案者氏名、所属】

氏名：大橋 正明

所属：特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター 理事長／連携推進委員

【議題提案の背景】

NGO・外務省定期協議会 2013 年度「全体会議」（6/10 開催）において、阿部俊子外務大臣政務官（当時）より「外務大臣からは、国際協力の重要な担い手であり、不可欠なパートナーシップである NGO の皆様と、今後、さまざまな分野において一層連携を強化していく方針であるので、引き続きよろしくお伝えしたいとメッセージをお伝えする」との発言があった。

7/16 に開催された「第 1 回連携推進委員会」においても阿部大臣政務官より「これまで打ち出してきた NGO 連携支援の柱を軸としつつ、NGO 側から新しい提案を受ける形で、NGO と外務省が中長期的なビジョンや目標を共有し、それに向けて双方が連携しつつ、具体的な行動を考えていくことが、お互いの協力に一層の効率と効果をもたらすのではないか」との発言があり、それを受け、国際協力 NGO センターの大橋理事長が「外務省と具体的に協議を重ねていきたい。ただし、NGO は多様性が命なので、まとめるのは簡単なことではないが、なるべく意見をまとめたほうが最終的には利益になる。」と発言し、「NGO と ODA の連携に関する中期計画」（案）を策定することが NGO・外務省双方の間で合意された。

その後、NGO・外務省定期協議会の連携推進委員および ODA 政策協議会コーディネイター、過去に策定された「NGO との戦略的連携に向けた 5 ヵ年計画」（2007 年度～2011 年度）に関わった NGO 関係者から希望者を募り、合計 8 名の NGO 側タスクフォース委員を設置し、これまでに外務省と 3 回会合を行っている。

タスクフォースでは、NGO と ODA の連携の「目的」に加え、基本方針として以下の 8 点を中心に議論しており、今回の連携推進委員会でその現状を報告したい。

- a. ODA 政策決定過程の情報公開と NGO の参加の強化
- b. ODA 本体事業への NGO の参入の拡大
- c. 日本の NGO と国際機関の連携強化のための支援
- d. 日本の NGO を通じた、あるいは直接的な、現地 NGO への支援と連携の質的・量的強化
- e. プロジェクト単位を超えた支援の検討と創設
- f. NGO のネットワークおよび政策提言活動への支援
- g. 市民による多様な国際協力活動の支援環境整備
- h. 外務省・JICA と NGO の人材交流の促進
- i. 以上 a～g を実現するための NGO 連携予算の大幅増額

NGO 側タスクフォース委員：

稲場	雅紀・特定非営利活動法人	アフリカ日本協議会
今西	浩明・特定非営利活動法人	ワールド・ビジョン・ジャパン
大橋	正明・特定非営利活動法人	国際協力 NGO センター
岡島	克樹・特定非営利活動法人	関西 NGO 協議会
定松	栄一・公益社団法人	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
椎名	規之・特定非営利活動法人	ジャパン・プラットフォーム
山崎	真由美・特定非営利活動法人	名古屋 NGO センター
山本	理夏・特定非営利活動法人	ジャパン・プラットフォーム

【議題論点】

(1) 目的

別紙を参照のこと。

(2) 基本方針「a」(ODA 政策決定過程の情報公開と NGO の参加の強化)

- (ア) 途上国の政策面への貢献や全国展開の可能性のある案件と ODA 本体事業の「つなぎ」
- (イ) ODA 本体事業によるインフラ整備案件における適切な社会環境配慮の策定および日本および現地の NGO との連携による実施、および情報共有の促進
- (ウ) 日本 NGO 連携無償資金協力の重点課題案件などへの管理費拠出の増加

(3) 基本方針「g」(市民による多様な国際協力活動の支援環境整備)

- (ア) 国際協力・開発援助に関する市民の理解・認識の向上
 - 国際協力認知度向上キャンペーン
 - 開発教育の促進
 - NGO 相談員の充実
- (イ) 市民グループや小規模 NGO の独自性を活かした手法の尊重、支援方法ならびに資金援助の開拓
 - 小規模 NGO 向けの新スキーム

以上